

R3-11

津波を想定した地域合同の防災訓練

- 管内 渡島管内
- 分類 避難訓練 危険対応能力 防災訓練 その他（ ）
- 教育課程 教科（ ）科 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
- 校種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- 取組のポイント

1 地震による津波発生を想定し、高校の校舎を避難場所とした小学校・グループホーム・地域住民（函館市時任町住民）との合同での防災訓練の取組

取組の実際
ねらい

- 生徒が、自主的に安全かつ的確に行動できる能力を育成する。
- 本校職員が、津波発生時における避難誘導等の自らの役割を明確にする。
- 参加者全員が、実践的な訓練を通して津波発生時の避難方法を理解する。

内容

1 地震による津波発生を想定し、高等学校を中心に、小学校・グループホーム・地域住民が連携した防災訓練の取組（時系列で訓練の様子を紹介）

- ・ 教頭は、校内放送で地震発生を周知
- ・ 教員は、生徒に対し、地震発生と同時に身の安全の確保を指示。生徒は安全を確保
- ・ ゆれが収まった時点で、教頭は、校内放送で津波を想定した避難準備の指示（小学生やグループホーム入居者、地域住民は高校への避難準備）
- ・ 本校職員は、校内の安全確認、校舎出入り口の確保、校内避難経路の確認
- ・ 高校生が移動し、小学生やグループホーム入居者、地域住民の避難場所を確保（高校1・2年生が4階へ移動し、3階を空けて小学生、グループホーム入居者、地域住民の避難場所を確保）
- ・ 本校職員は、校外からの避難者を誘導
- ・ 本校職員は、逃げ遅れた者、残留者を確認
- ・ 災害情報を収集し、3階から2階に避難しても安全なことを確認した上で、広くて安全な体育館へ移動
- ・ 避難訓練全体の講評（その後、校舎見学）



【昇降機を使って避難する様子】



【高校の教室に小学生が避難する様子】

成果と課題

- 合同での避難を行う中で、高校生が率先して小学生を誘導する等、安全確保の意識とともに、高校生の地域のリーダーとしての自覚を高めることができた。
- 連携して避難を行うことにより、情報伝達の注意点を確認することができた。
- 更に広範囲からの避難や今回設定した時間帯以外の避難も想定するなど、日常的に防災に関する意識をもって行動できるよう指導を行う必要がある。
- 避難訓練にとどまらず、命を守るという観点でのキャリア教育や、自然災害に対する防災について教科等横断的な視点で取り組む必要がある。